

内部資料

案件名：思想団体「日本清浄会」に関する調査報告書

作成日：平成 12 年（2000 年）6 月 15 日

分類：極秘（機密文書第 [REDACTED] 号）

【概要】

昭和 62 年（1987 年）、大学生有志を中心に発足した「日本再生青年会議」を母体とし、翌年「日本清浄会」と改称。

当初は道徳復興・倫理再建を掲げ、教育機関や公共空間における啓発活動を実施していたが、平成 8 年（1996 年）頃から急進的思想の浸透が進み、一部に過激化傾向が見られた。

【基本理念】

- ・ 「清く、正しく、美しい国の実現」
- ・ 「腐敗を断ち、民を清め、未来を築く」
- ・ 「精神的純化による社会刷新」

結成当初は、討論会、街頭演説、政治家への公開質問状提出など、穏健な手法が中心であったが、後年は以下の活動が確認されている。

【急進化後の主な行動】

- ・ 報道機関への突入・抗議行動（平成 8 年）
- ・ 都内での「若者浄化パレード」と称する無届デモ行進
- ・ 官僚宅 [REDACTED] への匿名糾弾文・怪文書投函
- ・ [REDACTED] ・公共施設への落書き、赤ペン署名運動
- ・ 爆竹や発煙筒等を使用した威嚇行為（逮捕者を含む）

これらの活動により、当庁は平成 8 年以降、重点的監視対象と位置づけてきたが、正式な過激派指定には至っていない。

【内部構造と変遷】

発足当初は学生主体の水平的ネットワーク構造を有していたが、平成 8 年頃から指導的人物 [REDACTED] のカリスマ化。

組織内部において「精神的象徴」としての特定個人崇拜が強まり、思想的純化と集団心理操作が混在する閉鎖的体制に変容した。

【分裂と組織崩壊】

平成 11 年（1999 年）春、内部における「穏健派」と「急進派」の対立が顕在化。

急進派は「直接行動による社会浄化」を主張し、後に分派を結成したが、同年中に自然解散。

平成 12 年（2000 年）現在、表面的には「日本清浄会」は事実上の解散状態とみられる。

【動向評価】

本団体は表向き「倫理復興」を掲げるが、実態としては強固なイデオロギー内在化と閉鎖的思考により、自壊的行動様式が見られた。

解散後も、元構成員による宗教団体、政治活動、資金移動などが継続しており、特に思想の伝播と再組織化の可能性については引き続き注視が必要と判断される。

【附記事項】

- 平成 12 年 5 月以降、関連宗教団体において信仰儀礼の兆候を確認（情報源：）。
 - 特定個人を「神聖化」し、信者間で外見同一化を図る儀式的医療行為が実施されているとの情報あり。
-

【結論】

「日本清浄会」は平成 12 年現在、組織としては解散状態にあると認められるが、思想的・人的ネットワークの完全な解消は確認されておらず、引き続き動向の厳格な情報収集と監視が必要とされる。

【別紙資料】

1. 組織年表（昭和 62 年～平成 12 年）【一部黒塗り】
 2. 残存ネットワーク関係図【黒塗り多数】
 3. 資金流動概要【全文黒塗り】
-

内部専用資料 — 外部持出禁止